

北秋田市阿仁学園 クロモジ茶味わって**3、4年生が製造・販売**

クロモジ茶を販売する阿仁学園の児童ら

北秋田市の義務教育学校阿仁学園の3、4年生が27日、道の駅あに「マタギの里」(阿仁比立内)で、自らが製造に携わった地元特産のクロモジ茶を販売した。10月5日の学園祭での販売も予定しており、CM動画を制作するなどPRにも力を入れている。

クロモジ茶は、阿仁地域の山に自生するオオバクロモジの葉と枝をまるごと粉碎して作る。マタギが体調不良や疲れを感じた際に飲んでいたともいわれ、ハーブのような爽やかな香りが特徴。現在は複数の地元業者が特産品として販売している。

阿仁学園は、前身の一つである旧大阿仁小時代の2021年から「森林総合学習」の一環でクロモジ茶の商品化に取り組んでいる。地元で製造販売を手がける「もりごもり」の益田光代表(31)の協力を得て、7月に近くの山でオオバクロモジを採取。粉碎と乾燥、パック詰めなどを行った。

パッケージのデザインも児童が手がけ、今年は「あ〜うめえごと」というフレーズとオオバクロモジの葉、ツキノワグマ、マタギ神社などの絵を配した。テーマは「小さなマタギのクロモジ茶」。狩猟だけではないマタギのなりわいや精神を表現している。

27日は道の駅で、児童10人が呼び込み班とレジ係に分かれ、1袋5パック入り千円(税込み)で販売。訪れた観光客らが次々と買い求めた。佐藤智紘さん(4年)は「飲むとすっきり爽やかで、去年よりおいしくできたと思う。たくさんの人に飲んでほしい」と話した。

阿仁学園は今月、YouTubeに公式チャンネルを開設し、クロモジ茶のCM動画を公開した。今後は東京・世田谷のボロ市など県外でも販売を予定している。来月5日の学園祭での販売は正午からの予定。(小松田直嗣) (令和7年9月28日(日)秋田魁新聞より一部抜粋)